

# AS/JP3000 6.0 TEST II

第三学年テスト二：読解・書き方・文法

Winter 1998-99  
Japanese Section  
DLLL, York University

Reading, Writing, and Structure

1. \_\_\_\_\_/36
2. \_\_\_\_\_/86
3. \_\_\_\_\_/40
4. \_\_\_\_\_/40

Name: \_\_\_\_\_

Student ID #: \_\_\_\_\_

Total: \_\_\_\_\_ / 202 \_\_\_\_\_ % Grade: A+ A B+ B C+ C D+ D E F

1. 次の漢字を書きなさい。

[2x18=36]

じょうせい    じょうほう    じょうしき    ようせい    せいしん    せきにん

せっち    かいしゃく    きせつ    しっぱい    けいけん    けいやく

こんなん    かんしょう    かんさつ    ざんねん    さべつ    しゅうちやく

2. 次の文章を読んで質問に答えなさい。

[86]

### 「力の世界」

大阪でトラックの運転手を始めてから、三ヶ月ほど経ったある日、仲間の運転手と仕事がいっしょになったことがあった。初めの三ヶ月は①西も東も分からなかったので②生っ粋の大阪っ子で、事故で片腕を無くした「木村はん」が助手として毎日教えてくれ、やっ  
③見習い期間が終わったころであった。相手の運転手は元木さんと言った。どこかの店に配送したら、二階だか三階だかの倉庫に積み荷を運ぶよう言われたので、二人で、パッキン、大阪ではダンボールと言わずにパッキンと言う、一箱二十キロぐらいのを三つぐらい抱えて階段を上り下りしたのである。まだ若かったし、張り切っていたので、④粋が  
いたのだと思うが、⑤ひょうきんものの元木さんが、車庫に帰ってから、他の運転手に、⑥話に尾鱈をつけて、こちらのことを話すのである。「太田はすごいぜ、八十キロぐらいのを平気で三階まで担ぎ上げるんだから。」などと⑦まことしやかに話したのである。ここで一言付け加えておくと、他の運転手は皆筋骨隆々で、一番年上でも三十代である。自分のような青白き学生の住む世界ではなかったのである。もちろん、夏休みに東京でもトラックの運転手をしていたので、筋骨隆々というには程遠かったが、体力はついていたと思う。(イ) 誰が言い出したか、覚えていないが、「それじゃあ、腕相撲をやろう。」  
ということになって、私もおだてられた手前、後に引けなくなって、一人一人と対戦する  
任儀となった。ところが、あっと驚く何とかで、一人とは引き分けたが、後の全員、全部で十人ぐらいいたと思うが、に勝ってしまったのである。こちらも驚いたが、彼らも驚いたようで、それ以後、一人前の同僚として扱ってくれるようになった。(ロ) それまでは、積み荷を持って帰って来た時などは、皆で手伝ってくれたりはしていたが、まだ仲間に入れてもらえていなかったのが、次の日からは、対等の扱いをしてくれるだけでなく、尊敬

してもくれているように感じた。私は、細い割に、と言うか、意外と細いのが腕相撲に強いのであるが、結構腕相撲には自信があったが、こんなに勝つとは思っても見なかったので、⑧きつねにつままれたような気もしたし、ひょっとすると皆わざと負けてくれたのかなあとも思ったりしたが、ここは⑨額面通りに受け止めることにした。それ以後、東京に帰るまで、仲間の運転手は、何か問題があるとかばってくれたり、手伝ってくれたり、本当に、仲間意識の有り難味を知った。そして、まだ力の世界があるのだなという実感を強くしたものである。二十二かそこらだったと思うが、一人前の運転手気分ちようきよりで長距離運送まをしている自分を思い出すと、⑩こそばゆい気持ちなつと、懐かしさがごっちゃ混ぜになる。仲間の運転手さん、本当に有り難うと言いたい。

(1) 下線部(イ) (ロ)を英語に訳しなさい。 [8x2=16]

(イ) \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

(ロ) \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

(2) 次の表現の意味を簡単に日本語で説明しなさい。 [3x10=30]

- ① 西も東も分からない \_\_\_\_\_
- ② 生っ粋の大阪っ子 \_\_\_\_\_
- ③ 見習い期間 \_\_\_\_\_
- ④ 粋がる \_\_\_\_\_
- ⑤ ひょうきんもの \_\_\_\_\_
- ⑥ 話に尾緒をつける \_\_\_\_\_
- ⑦ まことしやかに話す \_\_\_\_\_
- ⑧ きつねにつままれたような気持ち \_\_\_\_\_
- ⑨ 額面通りに受け止める \_\_\_\_\_
- ⑩ こそばゆい気持ち \_\_\_\_\_

(3) 次の質問しつもんに日本語で答えなさい。 [5x8=40]

(一)「木村はん」はどんな人で、何をしてくれましたか。  
 \_\_\_\_\_

---

(二)「パッキン」と「ダンボール」はどう違いますか。

---

---

(三) 倉庫で「私」は何をしましたか。

---

---

(四) なぜ「自分のような青白き学生の住む世界ではなかった」のですか。

---

---

(五)「私」にとってトラックの運転手をするのは初めてでしたか。

---

---

(六) 腕相撲の結果はどうでしたか。

---

---

(七)「仲間意識の有り難味」をどんな時に感じましたか。

---

---

(八)「私」は、なぜ「まだ力の世界がある」と実感したのですか。

---

---

3. 次の文の中から二つ選んで英語に訳しなさい。

[20x2=40]

- ① 官僚かんりょう というとどこの国でも融通ゆうづうのきかない、杓子定規しゃくしじょうぎ、冷たいというイメージが持たれている。日本もその例外でなく、「官僚的」と言えば形式的で独善どくぜん的同義語として使われている。しかし日本の官僚の場合、その能力は高く評価ひょうかされている。例えば近年おうべい欧米の学者やジャーナリストたちの間で、日本研究が盛さかんになっているが、彼らが「日本の繁栄はんえいと奇跡きせき的な高度成長ひみつ かつ」の秘密ひみつを語る時、例外あなく挙げるのが官僚の功績こうせきであり、官僚機構きこうである。日本の官僚制度がうまく機能している理由は、①

優秀ゆうしゅうな人材が集まっている ②政策立案せいさくに大幅おおはばな権限けんげんを持ち、かつ積極せっきよく的である  
③民間との関係が密接みつせつである などが挙げられる。

---

---

---

---

---

---

---

---

② こうしたボトムアップ方式による意思決定では、実行段階で予想されるあらゆる問題の発生に対しても検討けんとうが加えられる。つまり、最終的な決定というのは、その目的を達成するための遂行上すいこうの問題に対する対応策たいおうさくまで含んだものなのである。こうした意思決定の方法については、確かに決定までに相当の時間を要するという欠点もあるが、結論については最善さいぜんの選択せんたくができることや、実行段階に移った時には実行当事者全員が組織的に目的達成に向かって素早く対応できることなど、長所も多い。ただ、全員の検討段階では、依然としてむだも多く、その効率化こうりつが叫ばれている。

---

---

---

---

---

---

---

---

③ 転勤はビジネスマンにとって避けられないことであるが、中年になっての転勤で多いのが単身赴任ふにんである。これは、マイホームを建てたためにその地を離れたいという家族の希望とともに、子供の教育上の問題がその背景はいけいにある。それと、転勤の期間が数年であり、いずれ戻って来るとい見込みもあるからで、我慢がまんをするというのが実態である。しかし、任地が海外であったり、また、家族が離れて生活するというのは何かと問題があり、企業によっては制度的に見直しを図っているところもあるが、なかなか実効じっこうは上がっていない。

---

---

---

---

---

---

---

---

- 
- 
- 
- 
- 
- ④ さて、97年に決定した新しい加盟候補国とEUとの交渉は、98年から始まる。しかし税金の制度など経済の分野だけでなく、法律や環境保護などの幅広い社会制度を、EUの基準に合わせていく作業が待っている。さらに、新しい加盟国のEUの中での費用の負担をどのぐらいにするかなど、決めなくてはならない問題も多い。だから、実際に加盟が実現するとしても、早くて2002年ごろになると予想されている。一方、NATOの東方拡大については、これまでの西ヨーロッパと中・東ヨーロッパとの間の「人工的な線」の代わりに、今度は、拡大したヨーロッパとロシアとの間に新しい「壁」を築き、ロシアを一人ぼっちにさせる危険性がある。
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 

4. 次の文を日本語に訳しなさい。

[20x2=40]

- (1) Whereas the average housewife in prewar Japan spent no less than ten hours a day on homemaking, by the early 1970s the typical working wife with children spent only 3.7 hours a day at it – which was actually half an hour a day less than similarly situated American woman. And even stay-at home mothers in Japan put in only a bit over six hours a day. That, as it happens, is almost exactly the same amount of time that they devote each day to social and recreational activities and only two hours a day more than the typical Japanese adult devotes to watching television.
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
-

- 
- 
- (2) Americans who cling to our national heritage of rugged individualism like to argue that group-oriented societies stifle competitiveness. But however plausible that proposition, the Japanese educational system must be considered the exception which proves the rule. For despite the social molding process to which they are subjected, the academic competition among Japanese elementary- and secondary-school students is almost savage in its intensity – so much so that it makes the battle for grades that is waged in even the most competitive of U.S. schools look like a game of patty-cake 「子供の遊戯」.
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
-